

taxonomically.

**Macleaya cordata** (Willd.) R.Br. in Denham. & Clapperton, Narr. Travels Africa, Appendix XXII (Botany): 218 (1826).

*Bocconia cordata* var. *thunbergii* Miq., Ann. Mus. Bot. Lugd. -Bat. 3: 11 (1867).

*Macleaya cordata* var. *thunbergii* (Miq.) Honda in Bot. Mag. Tokyo 52: 518 (1938).

[*Macleaya cordata* var. *thunbergianum* Miq. ex Franch. & Sav., Enum. Pl. Jap. 1: 27 (1875); Matsum., Ind. Pl. Jap. 2: 146 (1912), nom. nud.]

Forma **glabra** H.Ohba. f. nov.

A typo subtus foliis toto glabro vel glabriusculo differt.

Type: Japan. N. Honshu: Yamagata Pref., Yamagata-shi, near Kabutoiwa, the interior of Yamadera. In newly clearings. 26 August 1971. H. Ohba no. 718031 (TI-holotype: TUS-isotype).

Paratypes: Japan. Honshu: Aomori Pref.: Kuniyoshi-mura. 30 July 1881. R. Yatabe s.n. (TI); Fukushima Pref.: Aizu, Yumoto. 7 August 1879. R. Yatabe s.n. (TI); Nagano Pref.: Shimajimadani. 20 July 1935. S. Momose s. n. (TI); Kanagawa Pref.: Yokohama. 15 July 1923. K. Hisauchi no. 937 (TI); Yamaguchi Pref.: Yoshiki-gun, Ouchi-mura, Hikami. 11 July 1892. J. Nikai no. 236 (TI).

(東京大学総合研究博物館)

## スミレ属の北海道産 2 新品種 (五十嵐 博)

Hiroshi IGARASHI: Two New Forms of *Viola* from Hokkaido, Northern Japan

1. オトメスミレサイシン *Viola vaginata* Maxim. f. *purpureocalcarata* H.Igarashi, f. nov.

北海道産のスミレサイシンの 1 新品種を報告する。この新品種は花卉は白色で距が紫色であるのが特徴である。1998年4月に渡島支庁七飯町大沼向かいの林道で群落として確認された。周辺ではスミレサイシン、ケタチツボスミレ、オオタチツボスミレ、フイリヒナスミレなども生育しているが圧倒的に本種が目立った。一部にはカラマツ植林なども見られるがトチノキの原木が生育する林床や林道沿いに生育が確認された。北海道内ではシロバナスミレサイシン f. *albiflora* Honda が数か所で報告されているが、距に関しては詳細な報告が少ないので本種のタイプも混じっていると思われる。タチツボスミレなどに見られる白花で距が紫色のオトメタイプであるため本植物を新品種 *Viola vaginata* Maxim. f. *purpureocalcarata* H.Igarashi として記載しておく。和名はオトメスミレサイシン (乙女菫 細辛) としたい。

2. サクライロオオタチツボスミレ *Viola kusanoana* Makino f. *subrosea* H.Igarashi, f. nov.

北海道産のオオタチツボスミレの 1 新品種を報告する。この新品種は花卉が白色に近いが淡いピンク色をしており、シロバナオオタチツボスミレ f. *alba* とモモイロオオタチツボスミレ f. *rosea* の中間タイプである。初確認は1993年5月でその後毎年確認しており変化は見られない。場所は檜山支庁乙部町宮の森公園の斜面である。春先はカタクリ、エゾエンゴサク、キバナノアマナ、アズマイチゲ、キクザキイチゲ、コジマエンレイソウなどで彩られる比較的明るい林床である。花色がサクラの花弁を思わせる色合いであるため本植物を新品種 *Viola kusanoana* Makino f. *subrosea* H.Igarashi として記載しておく。和名はサクライロオオタチツボスミレ (桜色大立坪 [壺] 菫) としたい。

本稿をまとめるにあたり、門田裕一博士に貴重なご助言をいただいた。また、オトメスミレサイシンの確認に当たっては、函館在住の宮川恵美子氏に産地情報を頂いた。ここに記して感謝の意を表したい。

*Viola vaginata* Maxim. in Bull. Acad.

Petersb. 23: 324 (1877).

Forma **purpureocalcarata** H. Igarashi, f. nov.

A typo calcaribus purpureis differt cetera ut in typo.

TYPE: JAPAN; Hokkaido, Oshima Prov., Kameda-gun, Nanae-cho, Onuma alt. 250m, 29 April 1998, H. Igarashi 98111 (TNS).

Nom. Jap.: Otome-sumire-saishin (nov.).

和名: オトメスミレサイシン (新称)

*Viola kusanoana* Makino in Bot. Mag. Tokyo 26: 173 (1912).

Forma **subrosea** H. Igarashi, f. nov.

A typo petalis subroseis differt cetera ut in typo.

TYPE: JAPAN; Hokkaido, Hiyama Prov., Kuto-gun, Otobe-cho, Miyanomori Park alt. 25m,

5 May 1993, H. Igarashi 93012 (TNS).

Nom. Jap.: Sakurairo-ô-tachitubo-sumire (nov.).

和名: サクライロオオタチツボスミレ (新称)

#### 参考文献

橋本 保 1967. 日本のスミレ. pp. 122, 141. 誠文堂新光社, 東京.

浜 栄助 1975. 原色日本のスミレ, pp. 42, 49-50, 138, 146-147. 誠文堂新光社, 東京.

—— (編) 1987. 写真集日本のすみれ. pp. 88-89, 96. 誠文堂新光社, 東京.

いがりまさし 1996. 山溪ハンディ図鑑 6. 日本のスミレ. 247pp. 山と溪谷社, 東京.

初山泰一 1982. スミレ科. 日本の野生植物. 草本 II. 離弁花類. pp. 243-253. 平凡社, 東京.

(北海道野生植物研究所  
〒001-0013 札幌市北区北13条西3-13)

ケマルバスミレ北海道に産す (五十嵐 博<sup>a</sup>, 梅沢 俊<sup>b</sup>)

Hiroshi IGARASHI<sup>a</sup> and Shun UMEZAWA<sup>b</sup>: *Viola keiskei* Miq. New to the Flora of Hokkaido

ケマルバスミレ *Viola keiskei* Miq. の分布域は、従来、青森県南部を北限として本州、四国、九州および朝鮮であるとされていた (橋本 1967, 浜 1975, 1987, 初山 1982, いがり 1996). しかし、1993年から1999年の北海道におけるスミレ属植物の分布調査で胆振支庁の苫小牧市森田沼、日高支庁の様似町ポニアブサリ川、同町ニカンベツ川及びえりも町幌泉川、十勝支庁の広尾町大丸山森林公園などの数産地を確認したので報告する.

北海道における本種の記録は、菅原繁蔵 (1958) の松前町渡島大島からの報告がある他、山本岩亀 (1938) の島牧村狩場山、さらに菅原繁蔵 (1953, 1961) による函館市、苫小牧市などがあるが、北海道大学付属植物園、小樽市立博物館、市立函館博物館に収められている証拠標本を同定したところ、ケタチツボスミレ、ウスバスミレ、エゾノアオイスミレであり、同定の誤りであった.

五十嵐は1993年に苫小牧市樽前の森田沼畔で本種を確認していたが、当地は個人の所有であり、庭園的な環境で本州から移入された

樹木が多数植栽されている. 本種がこのような人工的な場所に群落をなしていることから本州から根付きなどで持ち込まれた可能性が高く、移入種と判断した.

梅沢は「山の花図鑑アポイ岳」の出版にあたり (梅沢 1995), 様似町アポイ岳山麓2ヶ所で、本種を継続確認していた. 花時の姿はアオイスミレ *V. hondoensis* に似るが、花後に走出枝を出さず、葉もあまり大きくならないこと、また、産地が超塩基性岩地であることから、疑問を抱きながらもこれまでの見解 (高橋 1973, 初山 1982) に従い、エゾアオイスミレ *V. collina* としてこれを収録した.

五十嵐の1996年からの調査では、本種はアポイ岳山麓部だけでなく、様似町とえりも町にわたって広く分布していることが判明した. 1998年の調査では十勝支庁の広尾町でも確認され、ここではアオイスミレ、オオタチツボスミレなどと混生していた. 1999年は詳しい分布調査を行うとともに側弁の毛の状態も観察を行った. 苫小牧市産はすべて無毛であり、